

高知県立学校の校名に関する検討委員会 会議録

第1回高知県立学校の校名に関する検討委員会

場所：高知県教育センター分館 1階「大講義室」 (高知市大原町132)

1 開会及び閉会に関する事項

開会 平成28年2月22日(月) 18:30

閉会 19:40

2 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	委員	池	康晴
	委員	池田	あけみ
	委員	稲田	知江子
	委員	川北	恭弘
	委員(会長)	西郷	和彦
	委員(副会長)	時久	恵子
	委員	西尾	洋之

3 高知県教育委員会事務局の出席した者の氏名

高知県教育委員会	教育長	田村	壮児
高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	田所	実
〃	教育次長	中山	雅需
〃	教育次長	永野	隆史
〃	高等学校課課長	藤中	雄輔
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	坂本	寿一
〃	高等学校課課長補佐	高野	和幸
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	松井	竜太
〃	高等学校課主査	久保	義博
〃	高等学校課指導主事	市原	則和
〃	高等学校課指導主事	野中	昭良
〃	高等学校課指導主事	阿野田	由紀

4 高知県立学校の校名に関する検討委員会会長の依頼により出席した者

当会議では依頼なし

5 傍聴

49名

6 内容

【開会】

司会	定刻になりましたので、ただ今から第1回高知県立学校の校名に関する検討委員会を開催いたします。 開会にあたりまして、高知県教育委員会教育長、田村壮児がご挨拶いたします。
教育長	県教育長の田村でございます。第1回目の高知県立学校の校名に関する検討委員会ということで一言ご挨拶申し上げたいと思います。 まず、委員の皆様方には大変ご多用の中、この度の委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。また、本日は全員の委員の皆様にご出席をいただきまして、本当にご苦労様でございます。

	<p>この委員会の趣旨につきましては、あらかじめご説明をさせていただいていると思いますし、この後も説明させていただきますけれども、私の方からも簡単にご説明させていただきたいと思います。</p> <p>県教育委員会では少子化によります生徒数の減少、また、生徒の状況や社会の変化に伴う教育ニーズの変化への対応。さらに、南海トラフ地震、津波対策といったことに対応するために県立高等学校再編振興計画を一昨年の10月に策定いたしております。</p> <p>この計画では高知市におきましては、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校、須崎市におきましては、須崎工業高等学校と須崎高等学校をそれぞれ統合を行うということにいたしましたけれども、その決定を行う際に校名につきましては、それぞれの学校の関係者からいろいろご意見もございましたことから、一旦は棚上げにいたしまして計画を具体化する過程で学校関係者のご意見を伺うとともに県民の意見も聴取しながら最終的には県教育委員会で決定するというようにさせていただきました。</p> <p>計画策定後、これまで計画をベースに設置する学科の、より具体的な教育課程ですとか、あるいは施設整備などについて検討を重ねてまいりまして、後ほどその内容についてはご説明させていただきます。統合してできます学校の具体的なイメージはもっていただけるような形にまで来たと思っております。先程も申しましたように校名につきましては、各学校関係者から様々なご意見もありますことから極力オープンかつ客観的に検討していくということが必要という考えによりまして、校名について検討していただく第三者的な委員会を設けることといたしまして、皆様に委員をお願いしたという次第でございます。</p> <p>この委員会で校名候補、場合によっては複数ということもあるかもしれませんが、候補を決定いただいた後に県教育委員会で最終的な決定をし、議会で諮るという段取りと思っております。大変デリケートで難しい問題をお願いして恐縮でございますけれども、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。簡単でございますけれども私からのご挨拶とさせていただきます。</p>
司会	<p>本日は、高知県立学校の校名に関する検討委員会設置要綱に基づき委員を委嘱させていただいた7名の委員にご出席いただいております。それでは、ご出席の委員の皆様を紹介させていただきます。</p> <p>〈委員紹介〉</p>
各委員	<p>〈委員挨拶〉</p>
司会	<p>委員の皆様、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>次に、本日の日程について説明させていただきます。次第をご覧ください。</p> <p>この後、本検討委員会の会長・副会長の選出、県立高等学校再編振興計画に関する説明、校名候補の決定方法に関する確認・協議、その他連絡事項となっておりますので、ご協力、よろしくお願ひします。</p> <p>次に、配布資料について確認させていただきます。クリップ止めの次第が表紙になった資料が1部ございます。内容は、次第、資料1、資料2、資料3、参考となっております。また、基本設計段階でのイメージ図を添付しておりますのでご確認ください。なお、別紙といたしまして本検討委員会の傍聴要領がございます。不足している資料がありましたらスタッフまでお知らせください。</p> <p>次に、傍聴に関してのお願いをお伝えします。本検討委員会では、受</p>

	<p>付で配布させていただいた傍聴要領のとおり、私語や拍手など会議の支障となる行為をしないようお願いいたします。協議中にこのような行為があった場合、会長が注意し、なお、改めない場合は、申し訳ございませんが、退場していただくこともございますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>次に、本検討委員会の設置要綱について説明させていただきます。資料1の1ページをご覧ください。第1条に本検討委員会の目的と設置理由として、この要綱は、県立高等学校再編振興計画（平成26年10月策定）の前期実施計画で定めた、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校を統合する新たな中高一貫教育校、須崎工業高等学校と須崎高等学校を統合する新たな高吾地域拠点校の校名を決定するために、同計画で定めた校名の決定方法である「校名等の取扱については、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら、平成28年度末までに県教育委員会で検討し、決定する」に基づき、校名候補（複数の場合も含む）を決定し、県教育委員会に報告することを目的として「高知県立学校の校名に関する検討委員会」を設置する、となっております。</p> <p>また、第2条では、所掌事務として、委員会は、新たな中高一貫教育校及び新たな高吾地域拠点校の校名の決定に関する次に掲げる事項について検討・決定する。（1）校名候補（複数の場合も含む）の決定に関すること（2）校名に関する県民への意見の聴き方とその方法等に関すること、となっておりますのでよろしくをお願いいたします。</p>
--	---

【会長及び副会長の選出】

司会	<p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>まず、会長及び副会長の選出になっております。会長及び副会長の選出につきましては設置要綱の第6条で、委員の互選によることと定められております。どのようにいたしましょうか。少人数の会でもありますし、どなたからかご推薦をいただいて、お諮りする方法でいかがでしょうか。</p>
委員	〈異議なし〉
司会	<p>異議なしということでございますので、推薦の方法をとらせていただきます。</p> <p>どなたか、ご推薦いただけませんかでしょうか。</p>
委員	西郷委員にお願いできたらと思います。
司会	<p>ただいま、会長候補に西郷委員というご推薦がありました。他にございませんでしょうか。</p>
委員	〈なし〉
司会	<p>他にないようですので、お諮りいたします。当委員会の会長を西郷委員にお願いすることにご異議ございませんでしょうか。</p>
委員	〈異議なし〉
司会	<p>異議なしということで、会長は西郷委員に決定いたしました。</p> <p>それでは、申し訳ございませんが、お席の方を会長席にお移りいただけますでしょうか。それでは、西郷会長から一言、ご挨拶をお願いいたします。</p>

会長	<p>高知大学の西郷でございます。大役を仰せつかり少し緊張しております。</p> <p>大変重要なことを決めなければいけない、あるいは判断しなければいけないこの委員会のメンバーの一人としても、今までの私の経験をいかして最大限の努力をしたいと思っておりますので、ぜひご支援のほどよろしくお願い申し上げます。</p>
司会	<p>ありがとうございました。それでは、副会長の選出に移ります。</p> <p>副会長の選出につきましても、設置要綱の第6条で、委員の互選によることと定められております。どなたからかご推薦をいただく方法でよろしいでしょうか。</p>
委員	〈異議なし〉
司会	<p>異議なしということでございますので、副会長につきましても推薦の方法をとらせていただきます。どなたか、ご推薦いただけませんかでしょうか。</p>
会長	<p>それでは、私を補佐し叱咤激励していただくという意味で、時久委員にお願いしたいと思います。</p>
司会	<p>時久委員を推薦いただきましたけれども、他に推薦はございませんでしょうか。</p>
委員	〈なし〉
司会	<p>他にないようですので、お諮りいたします。</p> <p>当委員会の副会長を時久委員にお願いすることにご異議ございませんでしょうか。</p>
委員	〈異議なし〉
司会	<p>異議なしということでございますので、副会長は時久委員に決定いたしました。</p> <p>時久委員、申し訳ございませんが、お席の方を副会長席にお移りいただけますでしょうか。</p> <p>それでは、時久副会長から一言、ご挨拶をお願いいたします。</p>
副会長	<p>高知縣市町村教育委員会連合会の時久でございます。大変重要な中身の会議ですので本当に緊張しています。会長を補佐するということで全力で取り組みたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで、傍聴の方から、この会議の録音につきまして、要望をいただいております。傍聴要領には、傍聴者は、会長の許可なく、会議の様態を撮影又は録音しないでくださいとありますが、このことにつきまして、どういたしましょうか。</p>
会長	<p>お気持ちはよくわかるのですが、この場で私たちの考え方を言葉として表して、傍聴されている皆さんにもご理解いただく。そして私たちの考えについて、次回ご意見もいただく機会もあるということを考えますと、ベテランの委員ばかりですが、余分な緊張を与えるのは本旨にそぐわないだろうと私は思いますので、大変恐縮ですがこの会議における録音は控えていただきたいと思います。</p>

司会	<p>わかりました。この会議における録音は控えていただくということでお願いします。ただし、議事録については、事務局で作成し、改めて公開させていただきますので、よろしくをお願いします。</p> <p>ここからの進行につきましては、西郷会長と時久副会長にお譲りしたいと思いますのでよろしくをお願いします。</p>
----	--

【「県立高等学校再編振興計画」に関する説明】

会長	<p>それでは、議事進行をさせていただきます。次第にしたがって会を進行いたしますが、まず県立高等学校再編振興計画に関する説明を事務局の方からお願いします。</p>
企画監	<p>お手元の資料2の1ページをお開けください。最初に、再編振興計画の策定の経過からご説明させていただきます。平成16年度から平成25年度までの10年間を実施期間とした「県立高等学校再編計画」では、県立高校の教育内容等の質的向上を図り、子どもたちにより良い教育環境を提供するため、「特色ある学校づくり」と「県立高校の適正規模と配置」に取り組んできました。その中で、大栃高校や仁淀高校の統廃合を実施してまいりました。</p> <p>その後、生徒数の減少を見据えながら、県立高校の在り方を示す新たな計画が必要となり、平成23年に有識者などからなる県立高等学校再編振興検討委員会での議論を経て、「県立高等学校再編振興に関する報告書」が平成25年2月にまとめられました。その中では、「規模に関する基本的な考え方」としまして、「中央部をはじめ一定の生徒数が見込める地域では、生徒数の減少に応じて、その減少幅を考慮した入学定員の低減を考える必要がある。その際には、各校の学級数を一律に低減するのではなく、高等学校として充実した教育活動を行うことができる適正規模の学校の維持に努める必要がある。」としております。</p> <p>その報告書を受けまして、平成25年2月から11月まで、教育委員の意見等もお伺いしながら、事務局案を取りまとめてきました。その後、公開の場である教育委員協議会で、再編振興計画の基本的な考え方を協議しながら、平成26年1月27日に再編振興計画の前期実施計画の具体的な統合案をお示しいたしました。</p> <p>その後、一番下の○印にありますように学校関係者への説明を行いました後、次の2ページですが、平成26年度に入りまして、再編振興計画のたたき台について、統合対象校の学校関係者などのご意見を教育委員協議会という公開の場で、第2回から第13回まで順次お伺いしていく中で、修正すべき点は一部修正しながら、より良い教育環境を確保していくために、まずは、計画を策定させていただき、校名については、計画の中で、「校名等の取扱いについては、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら、平成28年度末までに県教育委員会で検討し、決定する。」と記載しまして、先送りをさせていただくことで統合校4校の学校関係者の代表の皆様にご了解をいただいたところでございます。</p> <p>では、3ページをご覧ください。再編振興計画の中の前期実施計画で定めました二つの統合のうち、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校との統合についてご説明いたします。枠の中にスケジュールとありますように、平成30年度に新たな中高一貫教育校の併設中学校を設置しまして、平成33年度に併設高校に仮称ではございますがグローバル教育科を設置、高知南中学校・高等学校におきましては、平成33年度から募集停止し、平成35年度に統合完了というスケジュールになっております。アの統合に向けた考え方にございますように、両校を統合する</p>

理由としましては、三つございます。

一つ目としまして、高知市及びその周辺地域におきましても、一定の生徒数の減少が今後見込まれることから、学校規模の縮小に伴い学校の活力が低下していくこととなり、将来の子どもたちのために充実した教育活動を確保していくためには、一律に各学校の定員を削減していくのではなく、統合により、一定の教員数が確保できる1学年6学級以上の活気ある学校規模を維持することが必要となってまいります。

また、統合には約8年を要しますので、生徒数が今後も減少していく中で、統合の時期が遅くなるほど、より充実した教育環境で学ぶことが困難な状況が長く続くこととなりますので、将来の子どもたちの教育環境を考えますと、対応を先送りにすべきではないと考えました。

二つ目には、高知南中学校・高等学校周辺は、海岸部に近接していることから、高知市内の他の高校よりも津波のリスクがより高く、早期の学校再開が困難になることが想定されますため、津波浸水の影響がないと想定される高知西高等学校との統合によりまして、震災に強い教育環境の整備を図ることができると考えました。

三つ目は、この統合により、これからの大きな教育課題でありますグローバル人材の育成につなげるために、高知南中学校・高等学校で取り組んできた国際理解教育と、高知西高等学校が取り組んできた語学教育を融合し、その相乗効果によりグローバル教育を推進することができますし、グローバル人材を育成していくためには、中高一貫の6年間で取り組むことが効果的でありますことから、高知南中学校・高等学校で積み上げてきた中高一貫教育の取組が活かされてまいります。以上のことから、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合を決定させていただいたところです。

次のイの目指す姿をご説明させていただきます。これにつきましては、次の4ページの横長の資料をご覧ください。統合後の新しい中高一貫教育校の姿を示した資料となっております。上の中ほどの社会環境の変化でご説明しておりますが、グローバル社会で活躍できる人材が本県でも求められています。

さらに、本県では過疎化が急激に進行していく中、これからの高知県の10年後、20年後を見据えました時に、郷土を愛し県民のために活躍できる人材、また、世界を視野に時代の先を読みながら、本県をリードしていける人材を育成していくことは、産業振興、地域振興という面からも、これからますます重要になってくることから、グローバル人材の育成を今後の本県の大きな柱としているところでございます。

統合する新たな中高一貫教育校は、本県の高等学校をリードするグローバル教育を行ってまいります。目指す生徒像にありますように、知識を詰め込むだけの教育ではない、現在、大学や企業からも求められている、課題を自ら発見し、自分で判断できる力を持ち、様々な考えを持つ人々と相手の立場を考えながらコミュニケーションできる能力を備え、皆から信頼されるリーダーシップを持つ人材の育成を目指した教育に取り組んでまいります。

左下の現在の高知西高等学校、その右に高知南中学校・高等学校の取組を記載しております。真ん中の矢印の中にごございます両校の統合によりまして、先ほど申しましたように、高知西高等学校の進学拠点校としての蓄積を継承すること。それから高知西高等学校の語学教育と高知南中学校・高等学校の国際理解教育を発展させ、そして高知南中学校・高等学校の中高一貫教育校の蓄積を継承することで、それぞれの強みを生かした新たな中高一貫教育校として統合するものでございます。

次に、3ページに戻っていただき、ウの統合の方法についてご説明さ

させていただきます。統合に当たりましては、平成 30 年度に新たな中高一貫教育校の併設中学校が開校します。平成 30 年度から 32 年度の高知南中学校の入学生につきましては、学力の定着状況等を確認したうえで、基本的に新たな中高一貫教育校の併設高校の普通科に入学いたします。

その下の「また」以降にありますように、先ほどご説明させていただきました「校名等の取扱いについては、両校の学校関係者の意見とともに県民の意見も聴取しながら、平成 28 年度末までに県教育委員会で検討し、決定する」とした内容が、先ほどご説明した先送りする際に、両校の関係者の皆様にご了解いただいた決め事となっています。この定めに従い、この検討委員会で学校関係者にご意見をお聞きし、その後、県民にご意見をお伺いしながら、最終的には、県教育委員会で決定することになります。

エの教育環境の充実については、現在、高知南中学校・高等学校では、教育センターと連携して探究的な学習や英語教育の充実に努めておりますし、高知西高等学校では、国のスーパーグローバルハイスクール事業を活用しまして課題研究などを行っております。また、施設整備につきましては、新たに中学生が増えることに伴います校舎の新築や改修などの準備を周辺住民の方々への説明会を重ねながら進めております。なお、参考資料としまして、カラーの A 4 用紙 2 枚で、新中高一貫教育校基本設計段階でのイメージ図として示しております。イメージ図の下中央にありますのが、新たに中学生が増えることに伴い新たに建てる校舎でございます。

次の 5 ページをご覧ください。新中高一貫教育校の最大の特徴となります国際バカロレア、略称 I B と申しますが、この点につきましては、この会議を立ち上げるに当たりまして、学校関係者に事前にご説明した際に、委員の皆様は今までの経過に加え、国際バカロレアについても理解してもらうようにと両校学校関係者から要請があったところでございます。

この国際バカロレアにつきましては、国際バカロレア機構が提供する国際的な視野を持った人材を育成するための教育プログラムとなっております。教育内容は、考える力やコミュニケーション力を養うことを重点に置いたカリキュラムとなっており、授業は基本的に日本語で行い、英語で行う授業もございます。また、創作活動やスポーツ、ボランティア活動にも力を入れた全人教育となっております。

次の(1)の I B のプログラムは、大まかに申しますと、日本での幼稚園と保育園から小学校段階の P Y P、プライマリー・イヤーズ・プログラム、それから中学 1 年から高校 1 年段階の M Y P、ミドル・イヤーズ・プログラム、それから高校 2・3 年段階の D P、ディプロマ・プログラムの 3 つの段階に分かれております。なお、ここでのディプロマとは、国際バカロレア機構が発行する修了書並びに成績証明のことでございます。それらのプログラムの内容や生徒の評価につきまして、国際バカロレア機構が外部評価を行うことで、国際水準の教育の質を担保でき、バカロレアの最終試験の点数が世界基準の点数となりますので、その点数をもって海外の大学にも入学することも可能となってまいります。

(2)の教育理念としましては、アの I B 教育の目指す 10 の学習者像がでございます。バランスのとれた人、思いやりのある人から考える人までの、今まさに社会から求められている人材育成を先ほどのプログラムの中で一貫して目指してまいります。イのコミュニケーションの重視、ウの異文化理解、エの全人教育と知識を活用することで知識が身に

付いて、そのことで生涯を通じて自分で学べることのできる生徒を育てます。概念、考え方を理解することで、身に付けた知識の活用力、応用力を育成し、自分の答えに対する振り返り・疑問を繰り返していくことで、知識の質、深みを大切にまいります。

(3)の教科の評価は、7段階の評価基準をあらかじめ生徒に示し、課題ごとに何が求められているのかを生徒自ら考えたうえでその課題に取り組んでまいります。

6ページをお開けください。2のIBの今後の方向性にありますように、日本でも国が国際バカロレア認定校を平成30年度までに200校に増やすことを目標として掲げており、それに向けてIB独自で行う科目を日本の教育指導要領に基づいた教科として読み替えることができる特例措置を昨年8月に新設いたしました。このことで、IBと高校の卒業資格の両方を取得するために必要な科目が少なくなりますので、生徒の負担の軽減につながってまいります。

先ほどご説明しました高校2・3年生段階でのディプロマ・プログラムであります3のDPの概要をご説明いたします。4行目にありますようにIBの6教科から1科目ずつの選択をすることが必要となっております。例えば、第1言語は日本語、第2言語は英語、個人と社会は歴史、実験科学は物理といったように個人ごとで選択を行います。そのうち2科目は英語で行うことが必要でございますが、他の4科目は日本語で行うことができるように本年度から規定が緩和されております。

その6科目に加えて、3つのプログラムである課題論文、考え方やプレゼンテーションについて学ぶ知の理論、そして、創作活動やスポーツ、ボランティアを行う創造性・活動・奉仕の3つが必須科目となっております。

次に4のDP資格による大学進学の場合としましては、イギリスでは大学の教養学部を終了したものとみなせることとなっておりますので、日本からの飛び級での入学も可能となっております。また、国内においても、DP資格を導入している大学が筑波大学を始め15大学、導入予定の大学が25大学となっております。

なお、昨年9月に、国立大学の組織である一般社団法人国立大学協会が、推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試の枠を拡大しまして、入学定員の30%を目標とするという方針を打ち出しております。

次に、7ページをご覧ください。新たな中高一貫教育校の学校像の案についてご説明させていただきます。1の教育目標は、「高い志を持ってたくましく行動し、地域や国際社会の発展に貢献できるグローバル人材の育成を目指します」としております。

2の学習者像として、先程のIBの10の学習者像を普通科も含めまして全般に通じる理想像でもありますことから、学校全体の学習者像としております。3、4はご覧のとおりでございますが、5の高校の学科・コースにつきましてご説明いたします。

普通科は定員200名、探究的な学びも取り入れながら、文系、理系に分かれ、国公立進学を目指してまいります。グローバル科につきましては、先程の計画の策定段階では、仮称でグローバル教育科としておりましたが、今年度に入りより具体的に検討していく中で、同じく仮称ではございますが、グローバル科としております。グローバル科の80名は、高い英語運用能力を基に主体的に様々なことに挑戦する探究コース60名とIBのプログラムに基づいて世界水準の学力と探究力を育成しますIBコース20名に分かれてまいります。高校は以上の合計で280名としております。

なお、併設中学校につきましては、平成30年度の開校当初の3年間

は1学年60名で開始する予定ですが、4年目となります平成33年度からは80名の定員を予定しております。

次に、8ページをご覧ください。前期実施計画で決めました二つ目の統合であります須崎工業高等学校と須崎高等学校の統合についてご説明させていただきます。

高吾地域の生徒数の減少が続く中でも、より良い教育環境を保障することができるように、高知市周辺部の適正規模であります1学年6学級以上の学校規模とは切り分けまして、県全体の適正規模であります1学年4学級以上の学校規模の維持が重要であるとしております。現在、両校とも1学年3学級規模の学校と既になっておりますことから、両校の統合によりまして、1学年6学級の学校規模を確保できることとなっております。

また、須崎高等学校におきましては、新莊川の河口付近に位置しているため、南海トラフ地震による津波が最大で7mと想定されており、校舎の甚大な被害が想定されますことから、確実に生徒の命を守ることや早期の学校再開を考慮し、事前に高台にある須崎工業高等学校の敷地へ移転することが望ましいと考え、両校の統合を決定させていただいたところです。

次のイの目指す姿ですが、統合後の姿をお示ししたのが、次の9ページになります。両校を統合しますことで、適正規模を維持することにより、多人数で切磋琢磨できる状況が生まれ、生徒の幅広い進路希望に対応できると考えております。

例えば、部活動でも活気ある学校となりますし、統合に際しては、震災に強い地域の防災拠点を見据えて、将来にわたって安心安全に学ぶことができる教育環境を整備することによりまして、高吾地域の拠点校となる新たな高等学校として、更なる発展を目指してまいります。

普通科は、3学級規模を想定しており、生徒の進路実現に向けて、地域の方々は今以上に期待されるよう、学習指導を充実させることで、更なる大学進学等の進路実現を目指すこと。また、工業科では、3科6専攻ということで、先日、学科改編を決定させていただきましたが、この学科改編をもとに、これまで培ってきました就職支援に向けた取組を継続しながら、さらに発展していくことを目指しております。この学科改編につきましては、後ほどご説明させていただきます。

8ページに戻っていただきまして、ウの統合の方法からご説明させていただきます。学科改編をいたします新しい学科で、平成29年度の新生入生から現在のそれぞれの校舎で学び、3学年が揃います平成31年度に統合し、そこで初めて両校の生徒が、現在の須崎工業高等学校の敷地の新しい学校に揃うこととなります。校名の取扱いにつきましては、先ほどご説明させていただいた内容と同じとなりますので省略させていただきます。

エの教育環境の充実にございますように、統合までの間は、防災教育などで地域と連携した取組などを行いまして、両校の生徒の交流を積極的に進めていくとともに、ハード面での整備につきましては、生徒数が増えることに伴いまして校舎の増築や改修、体育館の新築などを周辺住民への説明会を重ねながら進めておりますとともに、生徒が実習で使用する機械設備の新設や更新などの準備を併せて進めております。こちらも基本設計段階でのイメージ図を先ほどお配りしておりますA4カラーの資料でお示ししておりますので、参考にいただければと思います。

次に、10ページをご覧ください。高吾地域拠点校の学校像についてご説明させていただきます。こちらの学校像は、平成29年度の学科改編

	<p>に向けて、平成 28 年度から生徒募集が始まりますので、平成 28 年 2 月 12 日の教育委員会で学科改編を決定させていただいております。</p> <p>1 の教育目標は、人を思い、人とつながり、人に役立つ人材の育成を目指すとしております。</p> <p>次の 2 の普通科、工業科、定時制の目標も、それぞれの強みを生かしていけるように両校とも協議を重ねた結果、普通科は、確かな学力の向上と将来を切り拓く力の育成を、また、工業科では、知識、技能、技術を身に付け、信頼と尊敬に値する工業技術者の育成を、また、定時制では、社会人として必要な基礎学力や態度を身に付け社会に貢献できる人材の育成を、それぞれ目指すとしております。</p> <p>次の 3 の学科・専攻及びコースについてご説明します。現在の須崎高等学校の総合学科を普通科に、須崎工業高等学校の 4 科を 3 科 6 専攻に、平成 29 年度の新入生から学科改編することとし、決定させていただきました。</p> <p>普通科は、1 年次から国公立大学進学を目指す進学コースを設けてほしいという保護者からの強いご要望もありまして、文理コースでは、国公立大学等の進学希望に対応する学力を身に付けることができるように、1 年次から進学コースを設けるなど高吾地域拠点校としての取組を進めてまいります。</p> <p>工業科では、基本的に現在の 4 科の内容を継承してまいります。併せて、下の⑤にございますようにロボット制御などを行う機械制御専攻とこれまでのユニバーサルデザイン科で進めてきた、いえづくり、まちづくりの再生という視点から考えていくことを行います⑥の住環境専攻を新たに設けました。</p> <p>以上、長くなりましたが、資料 1 の 1 ページから 10 ページまでをご説明させていただきました内容が、今までの経過、新しい学校の姿など、委員の皆様には校名を検討していただくうえで、事前にご理解いただくためのご説明でございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは、委員の皆様、ただいまの説明についてご質問等がありましたらお願いします。</p> <p>まず、はじめに私から一つお聞きしたいのですが、高校の統合及びその学校の特色などについては、今回関係する 4 つの高校全てが合意されているという理解でよろしいでしょうか。</p>
企画監	<p>4 校の学校関係者、まずは校長をはじめ統合校の幹部の方々とは、高等学校課とそれぞれの学校との協議を重ねまして案を作成した後に、それぞれの関係の方々にもご説明をしながら進めてまいりましたので、合意いただいていると理解しております。</p>
会長	<p>そういう理解でよろしい訳ですね。そこが一番大事である。なぜかと言うと、あくまでも、生徒の教育をどうするかというのを睨んでことを進めなければいけないので、確認させていただきました。</p> <p>他にご質問はありませんでしょうか。</p> <p>それでは、もう一つ私から確認させていただきたいのですが、そういった教育内容について合意するにあたって、私の理解ですと、校名については、そういうものがはっきりしてから考えましょう。そして、平成 28 年度中に、最終的に教育委員会で決めて議会に出すということも 4 校とも承知されているという理解でよろしいでしょうか。</p>
企画監	<p>確認だが、教育内容についてであるか。</p>

会長	教育内容は4校とも関係者が合意していると理解したとして、一番この委員会が関係する校名については、その合意ができてから協議しましょう。そして、平成28年度のうちに決定しますというのは皆さん承知されている訳ですか。
企画監	先ほどの経過の中でもご説明させていただきましたように、まずは再編振興計画についてのご了解をいただき、校名については、皆さん思いが強いので、先送りさせていただいた。そこはご了解いただいた上で、計画についてご了解いただいたというふうに私どもは理解しておりますし、そういう経過で進んできたと思っております。
会長	他に質問はありませんでしょうか。詳しく説明いただいたので、質問もないようですので、次に進ませていただいてもよろしいでしょうか。

【校名候補の決定方法に関する確認・協議】

会長	次に、校名候補の決定方法に関する確認協議に移らせていただきたいと思います。まず、1番の校名の決定方法について、確認したいと思いますので、事務局から説明をお願いします。
企画監	資料3の1ページをお開けいただけたらと思います。本日の会議で委員の皆様にご確認、ご協議いただきたい事項で、一つ目をご確認いただきたいという点でございます。1の校名の決定方法についてというところで、先ほどから繰り返し申し上げております再編計画の文言が枠囲みがございます。丸で要点だけ3点書かせていただいています。一つ目が両校の学校関係者の意見を聞くという点、二つ目が県民の意見を聞くという点、それから、三つ目が平成28年度末までに県教育委員会で検討し、決定するという、この3点が先ほど申し上げた決定方法に関する再編計画に定められているところがございます。 下の枠内でございますように、平成28年度末までに計画の中には書かせていただいておりますが、統合に向けての準備を考えますと、遅くとも平成28年12月議会までには、校名に関連する議案を提出する必要があるということで、進めさせていただけたらと思っております。この点、ご確認いただけたらと思います。
会長	はい。ありがとうございます。 それでは、ただ今の説明について、委員の皆さまから何かご質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。 では、一点お聞きしたいのですが、両校の学校関係者の意見を聞くというのが1項目目にありますが、教育委員協議会の議事録を読ませていただいて、そこには4校の関係者のご意見がたくさん書かれておりますが、一応、ここに書かれていることをもって、意見を聞いたということによろしいのでしょうか。まだ、これからも聞く予定があるのでしょうか。
企画監	今までの教育委員協議会のご意見というのは、再編計画をつくるにあたってのご意見でございました。その中で、校名に関するご意見もいただきましたが、今回、新たに検討委員会を立ち上げまして、その中で、改めて校名に関してのみの協議をしていただくうえで、意見を新たに聞いていくと考えております。

会長	分かりました。要するに、この委員会の中でご意見をお聞きするということですね。
企画監	はい。
会長	そうすると、これは計画をつくるうえでのご意見をいただいて、これを基に計画をつくって、一応了解いただいている。そういう理解でよろしいか。
企画監	はい。
会長	分かりました。他に何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。
委員	〈質問なし〉
会長	はい、それでは、本検討委員会としましては、今のご説明を基に、統合校の学校関係者の意見を聴きながら、県民の声も踏まえて校名候補を協議、決定していきたいと思えます。 次に統合校の校名決定スケジュールについて、協議を進めたいと思えます。まずは、事務局から案の説明をお願いします。
企画監	資料3の2ページをお開けいただけたらと思えます。統合校の校名決定スケジュール案ということで、A4横長の資料がございます。先ほどの再編振興計画の定めに基づきまして、今回、具体的に、透明性を確保しながら、かつ、公正に統合校の学校関係者のご意見もお聴きしながら、ゼロベースから検討を進めていくために、外部委員の皆様により、まずは、校名の決め方から決めていただくということを考えております。その際には、次の第2回目の会議で、学校関係者の皆様から校名の決め方に関するご意見をお伺いし、そのうえで、第3回目に校名の決め方を決めるという手順で進めさせていただきたいと考えております。 なお、本日の第1回目と第3回目の会議は、学校関係者の皆様は傍聴ということで行いたいと思っております。第3回で決定しました校名の決め方に基づきまして、県民のご意見をお伺いし、その後、第4回以降の具体的な校名候補を検討する段階から、新中高一貫教育校、それから高吾地域拠点校の会議を分けて開催したいと考えております。 第4回では第2回目と同じく、統合校の代表者の皆様からご意見をお伺いする場を設けまして、県民と学校関係者の皆様のご意見を基に、第5回で校名候補を決定するというを考えております。 先ほどご説明しましたように、検討委員会で決定しました校名候補を県教育委員会に、ご報告いただきまして、そのご報告を基に、教育委員会で校名を決定しまして、その後、平成28年の12月議会までには県議会での条例改正を行いたいと考えております。 それから、次に、参考というのが次のページでございます。「他県の校名決定の状況」ということで、こちらは事務局の方で、他県の事例を調査して取りまとめたものでございます。下の表にまとめておりますように、検討委員会の設置の有無、それからその中で公募のあるなしでわけております。 結果的に最も多かった事例としましては、事例Gというのが下から三つ目でございますが、検討委員会を設置し、公募を実施した場合でございます。全体の34事例中21事例と約62%になっています。なお、次の参考の2ページには、他県の統合に伴います具体的な事例を統合の時期ごとで

	<p>まとめておりますので、また、ご参照いただけたらと思います。以上で、私からの説明を終わらせていただきます。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございます。それでは、このスケジュール案について、何かご質問があればお願いします。</p>
委員	<p>スケジュールについてですが、県民の意見を聴くというところがあるのですが、その意見の具体的な聴き方とか、そういったものについても、この委員会で審議のうえ、決定をするということなののでしょうか。よく、こういうものだというのは、パブリックコメントとか、そういうものがあると思うのですが、その辺はどのようなようになるのか、お尋ねしたい。</p>
企画監	<p>そこも含めて、どういった聴き方をするのかというところから、委員の皆さまにご議論いただけたらと思っております。</p>
委員	<p>それでは、第2回の会議で、学校代表の方から意見聴取をして、そのうえで、この委員で議論をしていくということになりますね。</p>
企画監	<p>はい、そうです。第2回で各学校の代表者の方から、決め方に対するご意見をいただいた後に、第3回目でそれを含めて決定するというように考えております。</p>
会長	<p>他に何かありますでしょうか。 それでは、私から一つお聞きしたいのですが、検討委員会を設置された他県の統合の例の中でいうと、大体どの位の時間をかけて何回くらいこういう委員会をやっているのが標準的なのでしょうか。</p>
企画監	<p>現在、把握している範囲で申し上げますと、半年くらいの間に4回から5回の会を開いておると聞いております。</p>
会長	<p>なるほど。そうしますと、ここでスケジュール表では5回、実施するようになっておりますが、これは、場合によっては増やす、または減らすということも可能なのでしょうか。</p>
企画監	<p>あくまでもスケジュールですので、両校のご意見を伺いながら、委員の皆様と協議していただき進めていくということですので、決まり切ったものとは考えておりません。状況によっては会長のおっしゃるとおり、減る場合もあるかもしれませんが、増える場合もあることも想定しながら進めていきたいと思っております。</p>
会長	<p>他に何かご質問はありますか。</p>
委員	<p>このスケジュールでいった時に、5回目が8月くらいと、7～8月のあたりに4回目、5回目を実施することになっていますが、この予定で、もし延びた時には、平成28年中に決定するという間に間に合う余裕はあるのでしょうか。</p>
企画監	<p>もし、延びた場合というご質問ですが、先ほど申しましたように、できましたら年内には決定させていただきたいということで、多少延びても何とか年内には決定させていただくスケジュールで進めたいと思っております。</p>

委員	わかりました。
会長	他に何かご質問はありませんでしょうか。
委員	第4回目と第5回目の先ほどの説明の時に、新中高一貫教育校と高吾地域拠点校をわけて議論をするということでしたが、これは同一日で時間をわけて行うのか、それとも二日間にわけて行うのか、そこを教えてください。
企画監	そこはまだ決まっていません。そこも含めて今後は検討しながら進めていきたいと考えております。ただ、言えますのは少なくとも時間帯を分けますので、一緒には議論をしないということです。
会長	他に何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。 それでは、事務局から提案していただいた案を基に、多少の伸縮はありうるということで、このスケジュールに沿ってやっていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員	〈異議なし〉
会長	はい、ありがとうございます。 それでは、本検討委員会としては、このスケジュールに従って第2回、第3回をひとまずは考えていきたいと思えます。実際にシミュレーションとして、できたら1回余分にやるとすると、どの位のことになるかのシミュレーションだけはしておいていただけますか。案を出す必要はありませんが、ちゃんと準備だけはやっていますというのを教えてください。 よろしいでしょうか。
企画監	はい。

【その他（事務連絡）】

会長	事務局から示されました協議事項は以上ですが、その他、事務局から何かありますでしょうか。
企画監	要望書というものを学校関係者の方から、事前にこちらの事務局の方に預かっております。それを委員の皆さまに、この場でお配りさせていただききたいと思えます。
会長	皆さま、よろしいでしょうか。
委員	〈異議なし〉
会長	それでは、皆さんに配っていただけますか。傍聴席にもお配りしますので、一部をお受け取りください。 委員の皆さまには、ご帰宅後、しっかりと読んでいただきたいと思えます。お読みになったうえで、今後の議論に透明性と公正性を是非、担保していただいて、中に書かれていますことも配慮しながら、議論を進めたいと思えますので、よろしく願います。 それでは、次回の本検討委員会は、各学校代表者からの意見聴取となっておりますので、それまでには、この要望事項を読んでおいてください。では、第2回について、事務局から願います。

企画監	<p>次回の会議日程につきまして、現在のところ、4月の中旬を予定しております。委員の皆さま方には、改めて日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p>
会長	<p>はい、どうもありがとうございます。ということで、4月中旬に第2回が開催されますので、是非、ご都合をつけて出席いただき、ご意見を聞かせていただけたらと思います。よろしくお願いします。</p> <p>その他、事務局の方からありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の私が司会すべき内容は終わりましたので、進行は事務局の方にお返しし、この後はよろしくお願いいたします。</p>

【閉会】

司会	<p>会長、副会長、会の進行をありがとうございました。</p> <p>それでは、以上を持ちまして、第1回高知県立学校の校名に関する検討委員会を閉会させていただきます。</p> <p>なお、皆さま、お帰り際には、駐車場等、見えにくくなっておりますので、交通安全にはお気を付けてお帰りいただきたいと思います。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p>
----	---